第１学年　保健体育科学習指導案

日　時　平成２９年９月２６日　（火）　第５校時
学　級　１年Ａ組　男子１８名　女子１７名
　　計３５名
場　所　宮野目中学校校庭（雨天時：体育館）
授業者　教諭　北條　秀麿

１．単元名　Ｅ　球技　ゴール型　「サッカー」

２．単元について

球技は、ボールなどを媒介として集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競う事をねらいとし、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、ゲームを楽しんだりする運動である。また、チームの中における自分の役割を理解することにより、共通の目標に向かって自らの責任を果たし、互いの長所を認め合いながら協力して向上しようとする姿勢やフェアなプレイを守ること、さらに作戦などの話合いに参加しようとする姿勢を身に付けることができる。

サッカーは、広いコート内で常に動き、走ることが要求されるため、持久力をはじめドリブルやステップに必要な敏捷性や柔軟性、キックに必要な筋力などを養うことができる。加えて、ゲーム中に生じる様々な場面から判断力、決断力、空間認知能力、洞察力等総合的に幅広い能力を養うことができる。しかし、サッカーは足でボールを扱うため技能の習得が難しく、ゲーム中のプレイの正確性に欠けることが多い。そのため、互いにコミュニケーションを図りながらミスをカバーしあおうとする姿勢を身に付けることができる。

３．生徒の実態

本校には男子部、女子部合わせて９つの運動部があるが、内訳は球技の「ネット型」が５、「ベースボール型」が２、武道が２となっており、日常的に「ゴール型」の運動に接している生徒は少ない。中でも１年Ａ組では日常的に「ゴール型」の運動に接している生徒は０人であり、ほぼ全員がサッカー未経験者である。

１年Ａ組の生徒は、明るく前向きな姿勢で授業に臨む生徒が多く、７月に行われた学校アンケートの「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。」という質問に対しては、８割以上の生徒が肯定的な回答をしている。また、１学期に行われた陸上や水泳の授業では、学習課題や自ら設定した目標の達成に向けて、ひたむきに努力する姿や、互いに励まし合う姿が見られた。しかしその一方で、運動が好きな生徒と、運動が苦手で、あまり好きではない生徒の運動に取り組む姿勢には大きな差が見られる。また、運動を苦手とする女子生徒の中には、保健体育の授業において積極的に運動に取り組み、言葉や体などを使って自己を表現し、交流することを不得意とする生徒も多い。

４．単元の目標

（１）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。

・ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開できるようにすること。

（２）球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

（３）球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

５．単元の評価規準

ア　運動への関心・意欲・態度	イ　運動についての思考・判断	ウ　運動の技能	エ　運動についての知識・理解
①サッカーの学習に積極的に取り組もうとしている。 ②フェアなプレイを守ろうとしている。 ③分担した役割を果たそうとしている。 ④用具の扱い方、練習場所など健康・安全に留意している。	①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ②学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。	①転がってきたボールを止めることができる。 ②ゴールや味方に向けてシュートやパスをすることができる。 ③パスを受けるために空いている場所に動くことができる。	①サッカーの特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ②サッカーの技術の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。

６．単元の指導計画（１４時間扱い）

	学習活動	評価基準
第１時	サッカーの特性や成り立ちを理解する 学習の進め方を理解する	ア① エ①
第２時	スキルテスト・試しのゲームとチームつくり	ア①
第３時	ボール感覚と片足感覚を身につける	ア④　イ①
第４時	ボールをける、止める　（静止して・動きながら）	エ②
第５時	狙ったところにボールをける	ア③
第６時	協力してパスをつなぐ	ア④　ウ①
第７時（本時）	パスを受けるために空いている場所に動く	イ①
第８時	ボールを奪われないドリブルとボールを運ぶドリブル	ア③
第９時	メインゲーム（試しのゲーム）	ア②　ウ②
第 10 時	チームに合った作戦や練習を考える	ア①
第 11 時	メインゲーム（リーグ戦）	ア③　ウ①
第 12 時	メインゲーム（リーグ戦）	イ②　ウ②
第 13 時	メインゲーム（リーグ戦）	ア②　ウ③
第 14 時	まとめ	エ②

７．本時の指導

（１）本時の目標

パスをもらうために必要な動きについて気づくことができるようにする
（思考・判断）

（２）本研究とのかかわり

本時は指導計画の７時間目にあたり、本校研究における言語活動の柱③「生徒同士（ペア、グループなどの活動）で、自分自身の考えを持ってかかわりあい、交流しながら表現する活動」を中心に取り入れて指導する。

サッカーはゲーム中の９０％以上の時間はボールを保持しない状態、つまりオフ・ザ・ボールの状態であるため、味方選手のボール保持者に対するかかわりあいが重要である。そこで前時までの学習では練習やゲーム中に味方同士で声や手を使ってコミュニケーションを図ることの必要性を学習してきた。本時ではそれに加えて、パスをつなぐことを共通の課題とし、各チームの実情に合わせながら工夫して作戦を立て、練習やゲームに臨ませたい。また、ゲーム後のチームミーティングではお互いの良かったところを積極的に出し合いながら練習やゲームをふり返らせ、次の授業の意欲につなげたい。全体ミーティングでは各チームの成果や課題を発表し合い、他のチームの発想や視点、頑張りや悩みを認め合い、共に考えることによって学級の一体感を創り出したい。

（３）本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価の方法
運動についての思考・判断	ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。	活動の観察 学習シートへの記述内容

（４）本時の展開

	学　習　活　動	○指導上の留意点　●評価
導入 10 分	１．あいさつ・出席確認 健康観察 ２．準備運動・基本練習 ３．本時の学習課題の確認	○欠席・見学者の確認をする。 ○安全に留意して行わせる。 ○技能のポイントを意識して取り組ませる。
	パスコースを作るために有効な動き方を見つけよう	
展開 33 分	４．試しのゲーム ５．言語活動 （１）グループでの話合い （２）パスゲーム	○試しのパスゲームを行い、本時のゲームのルール確認と課題の抽出を行う。 ○チーム毎に課題の解決に向けて話合いや練習を行わせる。 ○動き方の理解を助けるために、初めは手でボールを扱わせる。 ○ギャップの使い方を意識させる。 ○三人目の動きの必要性に気付かせる。 ○ゲームは攻撃時間５分、守備時間５分のハーフコートゲームとし、攻守の切り替えを無くし、一人一人の状況判断をしやすくさせる。 ○ボール保持者のタッチ数を制限してドリブルなしの状態でゲームを行う。 ○ボール保持者へのチャレンジを禁止し、ボール操作が不得意な生徒でもパスコースを探しやすいようにする。 ●言語や身体表現を用いながらパスをもらう動きのポイントを見つけている。（思考・判断）
終末 ７分	６．活動の振り返り ７．整理体操 ８．次時予告と家庭学習について	○チーム毎に学習シートを使いながら本時の振り返りを行わせる。 ○特に上手く行っていたグループや、変容の見られたグループを抽出して、チーム内での振り返りの結果をリーダーに全体で発表させる。 ○けがの有無の確認をする。 ○次の時間の学習内容の確認をする。